

ワンニュース

川崎市宮前区版 2022年12月9日掲載

市政報告

鷺沼駅前開発事業が再スタート

新型コロナによる事業検証と見直し
みらい川崎市議会議員団 おだかつひさ



ウィズ・コロナの暮らすが、鷺沼駅前の再開発事業にも新たな計画見直しをもたらしています。準備組合では、国の方針と「社会ニースの变化」に対応するため、再開発計画（施設計画や機能）の検証作業を行いました。

川崎市は、この検証結果を踏まえて、12月から

主要な変更箇所は

準備組合は「オープンスペース」の重要性や「職住接近ニース」に対応し、将来にわたり安心・快適に利用できる施設として施設計画や機能について再度検討を行った、としています。

④新たなライフスタイルである「職住接近」の実現をサポート。等々。これに区役所、市民館、図書館等の公共機能も整備することで、理想的な「地域生活拠点」となり、市民の「利便性向上」の視点が一層深化したと評価しています。

「地域生活拠点」の

さらなる利便性を追求川崎市は、本再開発事業を宮前区の「地域生活拠点の整備」と位置づけています。

詳細は説明会で

12月22日(木)の午後6時半から鷺沼小学校において、事業概要説明会が開催されます。



おだかつひさ

1961年幸区生まれ。駒場東邦高校、中央大学法学部卒業(地方自治、都市政策専攻)国会議員秘書を経て、2003年市議会初当選。現在5期目。まちづくり委員会委員、2021年5月、市議会副議長に就任。好きな言葉「知行合一」、「旗を建てる者は 管内足らざるなり」有馬在住

おだかつひさ

- ①市民の憩いの場となる駅前広場の機能の充実。
- ②建物中央に改札口からの貫通通路を設け、回遊性を向上。
- ③北街区と駅前街区を地上3階のデッキでつなぎ、利便性の向上。

準備組合から、駅の隣接地域に商業・業務や都市型住宅、文化・交流機能、子育て支援等の整備方針が示されています。今回はさらに「にぎわい・ウォーカーブル」「魅力的な駅まち空間」「オープンスペースの拡充・活用」「緑化・脱

